

ふるさと体験交流事業

ふるさと体験交流事業は、三豊市の伝承文化や農村・田舎文化を資源とする体験交流を行うことで、風化しつつある文化を呼びさまし、魅力ある地域づくりへの動きを芽生えさせようとするものです。その初めての試みとして、16人が参加して財田町で「そば打ち」と「原木シイタケ狩り」を体験しました。



▲山崎隆文さんのそば打ちを見ながら手順を確認する参加者たち



▲自分で打ったそばの味は格別 ▲伸ばしたそばを好みの太さに切ります

トライアル事業

12月12日午前10時、小春日和に恵まれたこの日、財田町の「道の駅たからだの里」に、大人14人、子ども2人の16人が集合しました。

ふるさと体験交流事業のトライアルとして「生活協同組合コープかがわ」と「そば打ち」、午後は「原木シイタケ狩り」を体験しました。主催する側も、参加された皆さんも、とにかく初めての体験です。まずは参加者に満足していただけるのか、それも特別なことではないで、できるだけ普段の

ままの状態を体験していただく、それで満足していただけるのか少し不安でした。

農村文化

スーパーマーケットなどに行く、国産輸入も含めて、一年中いろいろな果物・野菜などが売られています。それは、需要に合わせて生産したり輸入したり、つまり、市場の要求を満たす方向で、消費の拡大が起こったものだと思います。

これは、ある意味、私たちの食文化を豊かなものにしたとは思いますが、食べ物のはいつで、旬のおいしさはどのようなものか、というような感覚を置き去りにしたとも思えます。

かつて農村には、自給自足の食文化が伝承されてきました。味噌・醤油・コンニャク・豆腐・そば・うどん・漬物など、年間を通じて、



▲そば打ちを教える山崎隆行さん

楽しい一日

「そばがこんなにおいしいとは思わなかった」「家でも大好評でした」という参加者からの感想が寄せられました。講師は、財田町の山崎隆行さん、隆文さん親子です。山崎さんは、そば

「そばがこんなにおいしいとは思わなかった」「家でも大好評でした」という参加者からの感想が寄せられました。講師は、財田町の山崎隆行さん、隆文さん親子です。山崎さんは、そば



▲シイタケを栽培する林倉建一さん

専門店を一年前から開業しています。自分でそばをまき、そば粉を挽いた手打ちのそばが評判です。

水回し・こね方・伸ばし方・切り方・ゆで方、普段あまり体験できないことで、講師の手ほどきを受けながら、手打ちそばづくりの全工程を体験しました。「切る太さはどのくらいがいい



▲シイタケを採るのは初めての経験です

いのかな」「ゆでるとこんなに太くなるとは思いませんでした」など、わいわいガヤガヤやりながら、とにかく完成しました。子どもたちも一緒に挑戦しました。ゆでたてをすすると、そばの香りが口いっぱいに広がり、おいしさは格別です。みんな笑顔で味わっていました。

おなが一杯になったところで、午後からは原木シイタケ狩りです。スーパーで売っているシイタケは見ますが、原木から生えたシイタケはあまり見ることがありません。もちろん採ったことありません。

原木シイタケを栽培しているのは、財田町の林倉建一さんです。手塩にかけたシイタケ園ですが、体験ツアーを快く引き受けてくれました。「全部採ったらええ」「全部持って帰ったらええ」と、人柄があらわれた言葉に甘えながら、疲れもどこへやら、あっちこちと見つけては、もぎ採りま



▲こんなに大きいのが採れました

おすすめ分け文化

「人口が減ってしまつ」とか「活気がなくなる」とか悲観的な言葉をよく聞くようになってきました。「なんにも無い」とも言われます。確かに、スーパーや本屋、レストランなどは近くには無

いかもしれませんが、少し発想を変えて目を転じれば、農村には農村の、田舎には田舎の文化が息づいています。季節の変化とともに旬の一番おいしい時期を知り、旬を味わう素朴な料理などが伝えられています。

自給自足の食文化は、おすすめ分け文化でもあります。自分の家庭でできたものをおすすめ分けの考え方で多くの人たちに味わっていただく。味噌であり、豆腐であり、コンニャクであり、そば・うどんであり、それは、農村が培ってきた食文化、農村文化です。それは思いもよらぬ資源であり、どこにも無い、ここにしか無い貴重な資源ではないでしょうか。

なぜ交流が定住なのか

定住が目的ではあっても、直接的な定住事業だけに取

り組んだのでは効果が先細ってしまう可能性がありますが、少し時間はかかっても、ストーリー性があり、その地域の歴史や文化を土台とする、魅力的な三豊市、住みたいと思う三豊市づくりに取り組む必要があります。

この体験交流事業は、市の伝承文化や農村・田舎文化に着目し、それを資源とする体験交流を起こすことで、埋もれつつある、風化しつつある文化を呼び覚まし、魅力的な地域づくりへの動きを芽生えさせようとするものです。

今後は、陶芸体験・田植え体験・新米収穫体験・うどんづくりなど、参加して楽しく、それでいて何か意味のある体験メニューに取り組み予定です。三豊市にお住まいの人でも、再発見の機会にはなるのではないのでしょうか。ご参加をお待ちしています。

▼問い合わせ
バイオマスタウン推進室
☎73・3028